

◇-----◇
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2011. 12. 19

下水道機構の『新技術情報』 第26号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇

今年も残すところわずかとなりましたね。忘年会続きで二日酔いの方もいらっしゃるかも？オフィスでは毎朝コーヒーを飲まれる方が多いかと思いますが、コーヒーには二日酔いに対する効果があるそうです。コーヒーに含まれるカフェインは、眠気を覚ますだけでなく、肝機能を向上させる働きもあるとのこと。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第26号をお届けします。
業務に、今日はCoffee Break?にご活用ください。

■□■□トピックス□■□■

★インフォメーション

・12月6日に平成23年度の第2回技術員会が機構特別会議室で開催され、今回委員会では11テーマ中、9テーマの発表(審議)が行われました。

・第13回エコプロダクツ2011(場所:東京ビックサイト)において下水汚泥の資源エネルギー利用や地震関連(BCP)等について出展しました。

★機構の動き

・今週は、下水道BCP策定マニュアル(地震・津波編)検討委員会が開催されます。

★Tea Break

・スポーツの冬(研究第一部 K. Nさんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

・掲載情報募集中!

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

★国からの情報

・12月15日付け及び号外下水道ホットインフォメーションです

インフォメーション (最新の話です)

●12月6日に平成23年度の第2回技術員会が機構特別会議室で開催され、今回委員会では

は 11 テーマ中、9 テーマの発表（審議）が行われました。

このうち「雨水吐口付近に設置可能なコンパクトな合流改善技術に関する実用化研究」については実用化研究着手の諮問が、「川崎市等々力水処理センター 高度処理技術（担体利用酸素循環式硝化脱窒法＋脱窒ろ過法）に関する評価」及び「小規模用下水汚泥の燃料化システムに関する共同研究」については実用化研究結果の答申が行われました。

今号では、4 テーマについて審議結果の概要を示します。残り 5 テーマについては、次号にてお届けいたします。

(1)「川崎市等々力水処理センター 高度処理技術（担体利用酸素循環式硝化脱窒法＋脱窒ろ過法）に関する評価」

終了案件として審議されたテーマになります。

本研究は、川崎市が導入を計画している高度処理技術について「計画放流水質の適用に係る処理方法の評価」を目的としたもので、等々力水処理センターにおけるパイロットプラントによる実証実験の結果と、評価報告書の内容について最終報告を行いました。審議の結果、高度処理技術「担体利用酸素循環式硝化脱窒法＋脱窒ろ過法」は、設定しようとする計画放流水（BOD;10mg/l、COD;14mg/l、T-N;6mg/l、T-P;1.0mg/l）に適合する処理方法であることが認められ、答申を頂きました。

(2)「雨水吐口付近に設置可能なコンパクトな合流改善技術に関する実用化研究」

本研究は、前回の委員会で新規性が認められたことを受け、実用化研究に着手するものです。今回の委員会では、主として実験計画について審議が行われました。今後は、委員会での指摘事項を踏まえて実験計画を充実させるとともに、平成 23 年度中に実験装置の製作・設置を行い、平成 24 年度に各種実験を行う予定です。

(3)「清瀬水再生センターにおける汚泥ガス化炉施設の性能評価に関する共同研究」

本研究は、東京都との共同研究であり、本研究では、東京都下水道局の清瀬水再生センターの下水汚泥のガス化炉（100 t・脱水汚泥/日）の性能評価を平成 22 年 1 月～平成 24 年 3 月の期間で行う計画のものです。今回の技術委員会では、平成 22 年 11 月からの本格稼働運転の実績データを基に温室効果ガス発生量、ガス発電量について報告しました。今後、次回の委員会に向けて、最終報告書をまとめる予定です。

(4)「小規模用下水汚泥の燃料化システムに関する共同研究」

終了案件として審議されたテーマになります。本研究は、岐阜県美濃加茂市との共同研究であり、蜂屋川クリーンセンターを試験フィールドとして、平成 22 年 8 月～平成 23 年 9 月の期間で実証運転を実施し、実設備の導入に向けた設計諸元の確定ならびに導入効果（事業費低減効果、温室効果ガス削減効果）の分析を行いました。

技術委員会では、実用化研究の成果として設計諸元および導入効果等について報告を行い、実用性ありとの答申を頂きました。

●12月15日(木)～17日(土)に東京ビックサイトにおいて第13回エコプロダクツ2011が開

催され、当機構では下水汚泥の資源エネルギー利用や地震関連（BCP）等のパネル展示を行い、バイオマス受け入れやディスポージャーなどについて多くの質問を受けました。今回、下水道機構の研究を通して、数多くの皆さんに私たちの暮らしの足下をささえる下水道について、エコの観点から PR することができました。

会場は初日から大盛況で、衣食住など私たちの暮らしに関わるものから、企業活動や研究機関など多種多様な業界から出展があり、これまで気付かなかった身近なエコ活動の取り組みを知ることができました。

クイズラリーや牛乳パックでの手すきはがきづくり、自然観察会などなど体験型の展示が盛りだくさんで、楽しみながら環境問題やエコへの取り組みについて学ぶ児童生徒さんの姿が多く見られたのが印象的でした。今回、行くことができなかった方も、是非、来年足を運んでみてはいかがでしょうか。

機構の動き （機構の行事予定です）

●12月20日(火) 15:30～17:30

平成23年度第1回下水道BCP策定マニュアル（地震・津波編）検討委員会
（場所：機構8階中会議室）

Tea Break （機構職員の感じるまま）

●スポーツの冬（研究第一部 K. Nさんからの投稿です）

年の瀬もいよいよ押し詰まり、朝布団から出るのが一段と億劫な季節になってまいりました。冬のスポーツと言えば、スキーやスケートなどはもちろん、サッカーやラグビー、フリースタイルなど様々なスポーツがあります。こうしたスポーツの中に"マラソン・駅伝"もあります。下水道機構では毎年2月に開催されております「下水道職員健康駅伝大会」に参加させて頂いておりますが、我が研究第一部は2年連続で最下位というなんとも言えない結果でした。今年こそは雪辱を晴らすべく先日 "研究第一部秋の大運動会"と銘打ち、2000mのタイムトライアルを実施しました。高校、大学と駅伝部に所属していた私としては、卒業してから7年間全く走っていないものの、絶対に負けられない場面です。結果、何とか首位は確保したものの、諸先輩との差は僅かで、実力では……。今からでも練習して、普段の仕事ではなかなかお見せできない、輝く一面を皆さんにお見せできればと思います。（なお、このタイムトライアルの後、研究第一部では風邪を引く方が続出しました、皆様これからの季節くれぐれも風邪にはお気をつけ下さい。）

みなさまのコラム（皆様からお寄せいただいた情報です）

●掲載情報募集中！

機構の新技术情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としていますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。

下水道ホットインフォメーション (2011.12.15 付、国からの最新情報です)

送信元：国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸

今週、気仙沼へ行ってきました。下水道の復旧・復興についても道筋が見えてきたように思います。

ところで、先月、「復興屋台村/気仙沼横丁」がオープンしたと聞いたので、お昼に立ち寄ってみました。私は「まぐろなかおち井」を食べましたが、他にも「気仙沼ホルモン井」など魅力的なメニューがたくさんありました。株式会社「復興屋台村」実行委員長で「みなと気仙沼大使」の岩手佳代子さんが、すてきな笑顔で皆さんを迎えてくれます。是非、応援してあげてください。

<http://www.fukko-yatai.com/>

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○下水道地震・津波委員会第 5 回を開催しました【下水道事業課】

○下水道セーフティネット 12 月 1 日号 HP にアップしました【下水道事業課】

=====

○下水道地震・津波委員会第 5 回を開催しました【下水道事業課】

本日、「下水道地震・津波対策技術検討委員会」(第 5 回)を開催しました。

議事は以下のとおりであり、活発な意見交換が行われました。

- ・東日本大震災における下水道施設被害の総括
- ・下水道施設の復旧状況
- ・津波対策を考慮した下水道施設設計の考え方 等

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000148.html

委員会資料、議事概要については、近日中に下記 URL にアップします。

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/crd_sewerage_tk_000170-1.html

○下水道セーフティネット 12 月 1 日号 HP にアップしました【下水道事業課】

11 月は 9 件の下水道工事事故が発生、そのうち 1 件は残念ながら死亡事故でした。不注意が原因と思われる墜落・転落、はさまれ・巻き込まれ事故が多くなっています。

より一層の安全対策の徹底、作業手順の確認、作業員同士の声掛けにより、事故防止に努めて下さい。

http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000184.html

=====

【参考情報】

◆廃棄物：電池活用に期待 岩手大・県工業技術センター共同研究 / 岩手 <12/8 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/life/ecology/area/news/20111208ddlk03040030000c.html>

◆放射性物質検出の焼却灰保管で県がテントハウス建設へ、地元は「分散を」/ 茅ヶ崎 <12/10 神奈川新聞>

<http://news.kanaloco.jp/localnews/article/1112100013/>

◆ヒ素：たまり水から検出、基準値超すー 松本・並柳運動広場 / 長野 <12/10 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/nagano/news/20111209ddlk20040035000c.html>

◆北海道大：放射性物質対策も講義 衛生環境工学コース、震災機に見直し / 北海道 <12/10 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/hokkaido/shakai/news/20111209ddlk01100220000c.html>

◆3 下水処理場の汚泥から放射性ヨウ素 / 群馬 <12/11 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/gunma/news/20111211ddlk10040092000c.html>

◆茨城県、霞ヶ浦アオコ対策で実証実験へ リン回収し活用 <12/13 MSN 産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/111213/ibr11121310290005-n1.htm>

◆下水と廃材石膏でリン 広島 <12/14 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/hiroshima/news/20111213-OYT8T01214.htm>

◆下水道事業の手引 平成23年版 好評発売中

http://www.suido-gesuido.co.jp/blog/info/2011/06/post_34.html

下水道ホットインフォメーション（号外、国からの最新情報です）

送信元：国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸

○都市における再生水利用に関する国際ワークショップの開催について【流域管理官】

アジアは経済成長のけん引役として期待されている一方、都市への人口と産業の集中が著しく、都市環境、水環境の悪化と都市で急増する水需要に対応するための水資源確保が

焦眉の課題となっています。「国土交通省成長戦略」では、日本の技術・規格の国際標準化や投資対象国での採用に向けた取組を推進するという方針が打ち出され、その一環として、日本、中国、韓国の3ヶ国からなる「北東アジア標準協力フォーラム」の枠組みを活用し、「都市における再生水利用の規格」の開発に向けた検討が行われています。

この度、その3回目の会議が、最新の技術開発や水ビジネスの国際展開に向け「北九州ウォーターハブ」構想を推進している北九州市にて開催されることとなりました。日中韓の専門家が集まるこの機会を活用し、各国の再生水利用の実情や最先端の研究について紹介するとともに、今後の国際標準化の方向性について意見交換いたします。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

<開催日時>平成24年1月10日(火) 13:30~17:00

<プログラム(案)>

○基調講演 田中宏明(京都大学大学院教授)、胡洪菅(清華大学教授)、LEE, SangHo (KookMin University 教授)

○パネルディスカッション「再生水利用の国際展開に向けて」

コーディネーター 田中宏明 (京都大学大学院教授)

パネリスト 胡洪菅(清華大学教授)、LEE, SangHo (KookMin University 教授)、高島英二郎

(国土交通省下水道部流域管理官)、田中文彦(北九州市建設局海外水ビジネス担当部長)、篠田好司(福岡市道路下水道局下水道施設部長)、藤木修(ISO/TC224 国内対策委員会共同議長)

<会場>北九州国際会議場(北九州市小倉北区浅野三丁目9番30号)

<主催>国土交通省・北九州市・京都大学 GCOE「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」

<定員>100名(定員になり次第、締め切りますが、席に余裕があれば当日参加も可です。)

<使用言語>英語、日本語(同時通訳付)

<参加費>無料(要事前登録※)

※メールにて参加者様の氏名、所属団体、住所、連絡先(電話、E-Mail)を以下の申込先に登録下さい(2012年1月6日まで)。

<申込先>日本水工設計株式会社(〒104-0054 東京都中央区勝どき3丁目12番地1号フォアフロントタワー)

海外事業部事業課 石塚 奥人

FAX.03-3534-5520/E-mail:o-ishizuka@n-suiko.co.jp

(TEL.03-3534-5592)

